



The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

JAMCA ニュース

No.78

2013 年 7 月 1 日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大京町 31
ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3
☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

東南アジアからの留学生の受け入れ

北九州自動車大学校 理事長
全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

中村 文彦

福岡県私学協会（小・中・高の教育団体）ではグローバル化の中において、異文化体験を通して視野を広げる事を目的として、10 数年前から東南アジアの国々と生徒間交流を一部県の補助を受けながら行ってきた。1 校 1 名で約 60 名を日本から 8 日間派遣し、相手国からは約 30 名をホームステイさせ、お互いの国の文化伝統教育の交流の場とし、それにより生徒たちがその後の学校生活や生き方に対し、多大な影響を及ぼしている。相手国の若者も今後国際的に活躍をしていくことだろう。

本法人も以前短大を開校していた際、中国四川省の姉妹校提携校や、現地に赴きその学校の生徒を 2 年間留学生として受け入れていた。自動車大学校においては過去 2 名の留学生を受け入れた。そのうちの 1 名は当短大でコンピュータ技術を身に付け卒業した後、自動車工学を学ぶため当校に入学した。早期に日本語検定 2 級を取得していたので専門用語を十分に理解出来たし、学習意欲は非常に高かった。その結果 2 年間で 2 級整備士の資格を取得し、国内の車関連の会社に就職した。

問題は学費だった。母国からの仕送りはわずかと思われ、限られた時間内でのアルバイトでは学費は補えない状況だった。本学入学前までは大丈夫と言っていた。ふたを明けてみれば案の定、学費滞納が続き結果として卒業後、分割で支払うことになったが、4 年がかりで完納した。卒業後彼は仕事に励み、



私生活では高級スポーツカーに乗り、日本の生活を大いに満喫している。今後自動車整備技術を身に付けたい東南アジア諸国の若者が増加する可能性は大である。しかし、果たしてこのような留学生が今後多数在籍し日本の整備士資格を取得できるであろうか。疑問である。資格取得を考慮しなければ受け入れ可能だろう。

前述した高校生のアジア交流の一環として、ベトナムとの生徒間交流提携を目的に 2 年前視察に行った。ベトナム戦争終結から 40 年経ち、どのように発展しているか想像しながらハノイに到着したが、あふれんばかりのバイクの洪水には閉口した。しかしあちこちに日本車が見られ、日本のメーカーの看板が見られた。乗用車の大半が日本車との事である。車検制度はなく、整備は直接ディーラーへ持ち込んでいるようだ。ベトナムの高校では狭い敷地の中、午前午後の交代制で約 2,000 名の生徒が熱心に勉強に打ち込んでいた。私が過ごした日本の戦後教育のように感じた。3

校を訪問したが全て日本語の授業が行われていて日本行きを熱望していた。翌年に交流学生として約 20 名が来日した。その機会にベトナム教育省の方と高校の校長ら 5 名が我が自動車大学校に来校し、熱心に質問をし、見学をして帰ったが、留学生を受け入れる余地があると思われる。

タイからも学園に教育省と私立学校の経営者約 20 名が近々半日ではあるが視察のため来校する予定である。タイは日本の大学よりは専門学校に興味があると聞いている。来られた際にその真意を伺いたいと思う。

ミャンマーは急速な民主化と言うことで日本企業が押し寄せているようだが、ある北九州の企業が自動車整備工場を進出させるとの事で我が学園に留学生の受け入れを打診された。早速職員をミャンマーに派遣したが、留学生を出す体制が出来ていないという報告を受けたので保留をしている。そのほかの国の学校との姉妹校提携を模索しながらまずは職員間の交流を始め、学生・生徒の交流を深めていき、留学生を受け入れていきたいと考えている。

CONTENTS

- 2 面 奨学金について
- 3 面 我が校自慢
- 4 面・5 面 交通事故の傾向と若者に対する安全教育
- 6 面 協会トピックス
- 7 面 活躍!! 卒業生・地区通信
- 8 面 私の教材活用・お知らせ・編集後記